

京都のまちの象徴「京町屋」を守りたい

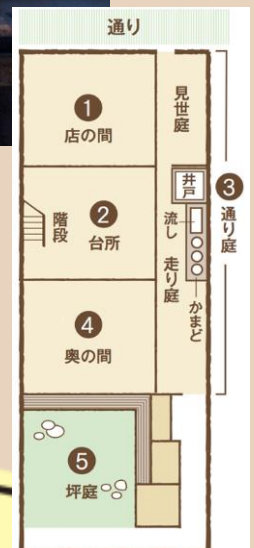
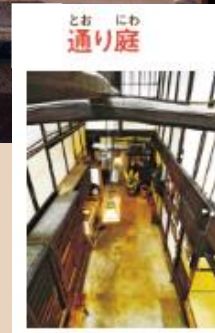
3月8日は町屋の日

3月は英語でマーチ（March）。3月8日はマーチヤで「町家の日」として、一般社団法人日本記念日協会にて制定されました。そこで今回は、町家暮らしの魅力（知恵と美学）をご紹介します。町屋には、使い勝手だけでは測れない素敵な魅力が隠されています。木のぬくもり、暖かく落ち着いた雰囲気、昔ながらの知恵や美学が詰まった居住空間を見直してみましょう！

・町屋の魅力

町屋の魅力は、何といても天然素材を使用した住居空間の贅沢さにあります。質の良い和紙や木材を使用した障子や梁、床材、また畳や塗り壁など、日本の気候にあった優しい住まいと言えます。「自然に住む」無添加住宅は、近年人気の住まいの在り方ですが、実は町屋は天然素材に囲まれたとても贅沢な住居空間です。

間口が狭く奥行きが深い「うなぎの寝床」と呼ばれる間取りが特徴的です。裏庭があり、玄関から裏庭までの土間の部分を「通り庭」と呼びます。このような庭は、採光や風通しを良くする役割をまかっています。



・知恵と美学

昔の町屋の住居空間は冷暖房や換気設備がないため、自然の力をうまく取り入れることで快適に暮らしていました。

通り庭、続き間、坪庭など、風通しを良くし蒸し暑い夏を冷房無しで涼しく過ごすための工夫の一つです。また、屋根面に付けて引き窓を配置し、天井から光が入ってくる構造を作り出します。現在でも人気の高い吹き抜けと同じような役割を果たしています。町屋には、昔の知恵や美学が詰まっています。

この知恵こそ環境にやさしい街作りの原点ではないでしょうか。



・京都のまちの象徴「京町屋」を守りたい

今、町家が年々姿を消しています。京町屋の所有者は、修繕費の負担、保全・継承できる方法を知らずに解体することが少なくありません。

そこで、京町屋条例を制定し、届け出により市が状況を把握、支援制度や活用事例等を紹介しています。また、今年度は改修費用の助成制度を創設・拡充しています。

5月の京都是藤の季節

春の桜や秋の紅葉に劣らない5月の花暦をご存知ですか？
その代表はなんといっても「つつじ」と「藤の花」。
特に、藤の花の降り注ぐように咲くさまは情緒深い絶景を見せてくれます。
今回はそんな「藤の花」の名所をご紹介します！！

京の藤の名所3選

↓ 平等院…建立した藤原家の家紋でもある藤、
平等院のシンボルとも言えます。



↑ 鳥羽水環境保全センター…普段は施設には入れませんが、
一般公開(今年は4/26-30でした)の際はぜひ！



→ 福知山のふじまつり…5/13開催。

京都府天然記念物の樹齢2千年のオノ神の藤が出迎えてくれます。



今回は、「京都府・北部産業創造センター」様よりご依頼いただいたカタログラック2種類を
ご紹介いたします。

「北部産業創造センター」とは、京都府北部ものづくり企業の成長発展、
時代を担う新産業の創出等を目指し、京都府・綾部市・京都工芸繊維大学が
共同運営されているプロジェクトです。



今回ケイジパックでは、センター内に
設置されるカタログ展示用のラック
を製作させていただきました。

このプロジェクトにご興味のある方
→ http://www.pref.kyoto.jp/sangyo-sien/nicc_index.html
(京都府/北部産業創造センターHP)
ラックにご興味のある方→ <http://www.keiji-p.com/>
(ケイジパックHP)
ぜひ！

